

# 企業の古本でNPO支援

古本業者が、買い取り相当額をNPO法人にその企業名で寄付する。現在はまだ試行段階だが、県内に取り組みを広げ、「長野モデル」として全国に発信することを目指している。

企業から提供を受けた不要の書籍を換金し、NPO法人の活動を支援する取り組みが1日、県内の企業と古本業者、NPO法人の協力で始まった。企業から書籍の寄付を受けた

## 買い取り相当額を寄付 県内業者ら協力



野村ユニソンが本社の食堂に備えた書籍の回収ボックス

## 取り組み 全国拡大めざす

取り組みを始めたのは、生活関連ロボット開発・製造などの「野村ユニソン」（茅野市）、上田市を拠点にインターネットで古本を販売している「パリュブックス」（東京都）、若者の自立支援などに取り組みするNPO法人「侍学園スクオアラ・今人」（上田市）、パリュブックス社長の中村大樹さん（26）が1年ほど前、知人で侍学

園理事長の長岡秀貴さん（36）から「NPO法人の多くが資金面で苦しんでいる」と聞いたのがきっかけ。中村さんによると、一つのプロジェクトが終わるごとに100冊単位の書籍が不要になる企業が多い。こうした書籍は学生らに販売できることから、長岡さんの知り合いで野村ユニソン社長の野村稔さん（63）に今回の取り組みを提案した。

野村さんは「眠っていた資産を活用する点が面白い」と賛同。これまでも不要になった書籍は古紙回収に出していたという。野村さんの会社はこの日、茅野市と諏訪市にある工場や事業所の食堂計6カ所に段ボール製の回収ボックスを設置。朝礼で社員にも自宅の古本の提供を呼び掛けた。

集めた書籍はパリュブックスが引き取り、買い取り相当額を侍学園に寄付する。同社の中村さんによると、本にもよるが、段ボール箱1箱分で3千〜5千円になる。侍学園の長岡さんは「寄付されたお金が、どんな活動に使われ、どんな笑顔につながったのか、成果をしっかりと返したい」と話している。

長岡さんらは協力企業を増やした。3、4月に集まった書籍数や寄付額などの実績をまとめ、県経営者協会に協力を呼び掛ける考えだ。協力企業が増えれば、寄付を希望するNPO法人も募り、外部識者らによる選考委員会を通じて分配することも考えている。長岡さんは「県内企業が県内のNPO法人を育てる仕組みをつくれればいい」と話している。